

明日から春休み

令和4年4月8日に始まった令和4年度が終業式を迎えた。「選択肢の拡大」と「心配から信頼へ」という二つの大きな挑戦により、新しい姫路別所高校像が築かれつつある。

一つの例として、制服の移行期間の廃止により、生徒の皆さんは自分の体調や心境に合わせて制服を選ぶことができるようになったことで、暑い日に汗をかきながら冬服を着たり、寒い日に震えながら夏服で過ごしたりということがなくなり、制服へのストレスを感じる要素が少なくなった。一方、教員も一つ無駄な指導をする必要がなくなったことで、制服指導へのストレスが軽減された。併せて、カジュアルウィーク・カジュアルフライデー・カジュアルホリデー、フォーマルデーを設定し、TPOを考慮したメリハリのある服装を考えてもらえるようになったことは、大きな進歩だと考える。そして、ハロウィンも一定の範囲のもとで楽しむことができた。逆に制服を大切に、美しく着用する人が増えてきたように思う。

これまで、「心配」して細かい規則をつくり、その枠で指導する形をとっていたが、思い切って「信頼」してみたら、生徒の皆さんはその「信頼」によく応えて、適切な範囲で行動してくれた。これは大きな収穫であったし、生徒の皆さんの成長を強く感じる事ができた。そういう1年だった。

こうした我々の考え方の変化は、

- ①これまでに何度も伝えたように「命さえあれば、失敗も成長の糧だ」と思わせてくれた彼女のおかげ
- ②生徒の皆さんが変に拡大解釈せず、節度を持ってTPOを考える姿勢を持ってくれたこと
- ③保護者の皆様のご理解ご協力くださったこと
- ④先生方が「やってみよう」と挑戦してくれたこと
- ⑤生徒会・生徒指導部を中心に実現可能な範囲を炙（あぶ）り出して「できない理由」ではなく「できる方法」を検討してくれたこと

などという要素が組み合わさって齎（もたら）されたものだ。①が最も重要なことであることは言うまでもないが、他のどの要素が欠けても、なし得ていないことは確かだ。その流れがあり、スマホの使用範囲の拡大や交流体育祭・文化祭の見直しなどにも繋（つな）がっていった。そういう1年だった。

「校則の改訂」という堅苦しいものではなく、「アップデート」とすることで、日々更新することができ、不具合があれば元に戻すこともできるものにしたことも工夫の一つだ。勝手に法令（学校であれば校則）違反をするのではなく、正しいルート（学校であれば生徒会）を通じてコミュニケーションをしっかりと図ったうえで、変えるべきところは変えていくという方法は、社会に出てからも大切なことだと考えている。「学校は社会へ出るための準備をするところ」であるから、学校内だけのルール・マナーを出来るだけ少なくしていきたいし、その上で、社会で大切なことを学べる・身につける場でありたい。

卒業生に挨拶が定着していた

先日事務室に明るい髪の色をした若い女性が来ていた。こちらを見て明るく笑顔で挨拶をしてくれるので、よく見ると、この春卒業した46回生の卒業生だった。制服姿を見慣れているので、一目見ただけではわからなかったのだ。わざとらしくなく自然に、でもはっきりした声と相手をしっかりと見つめる眼と爽やかな笑顔が印象的だった。あまりにもいい挨拶（彼女の在学中の挨拶よりいい挨拶！）だったので、「いい挨拶だね」と声をかけると、嬉しそうに、はにかんでいた。卒業したら挨拶日本一のことを忘れてしまうのではなくて、より磨きをかけていい挨拶をしてくれた。そんな姿を見て私は嬉しかった。

学校案内の中に、一過性ではなく、定着して姫路別所の学校文化にしたい行動を5つ挙げている。

- ①爽やかな挨拶と丁寧な言葉遣いができる文化：挨拶日本一とも関連
 - ②制服をさわやかに着こなす文化：スマートな制服をスマートに着こなすのが今風
 - ③5分前に自ら集合完了する文化：全校集会で実践済み
 - ④履物を揃える文化：1階のトイレの下駄から全てのトイレの下駄へ。球技大会中の体育館の入り口。
 - ⑤自ら進んでボランティアに取り組む文化：コミュニティ食堂など
- 一つずつ積み上がりつつあるように思う。そういう1年だった。4月10日を全員で元気に迎えよう。